

## 計測・制御システム

Measurement and Control Systems

## 巻頭言

## 計測・制御システムの将来

Future Expectations for Measurement and Control Systems

2009年10月号で、景気悪化やH1N1インフルエンザのパンデミック（世界的流行）により、人や物の流通が変化し世界全体が物理的に相似形の集合体に近づいていると述べました。2011年3月の東日本大震災や世界各地での異常気象は、社会構造自体を変えざるをえない状況に至らしめ、改めて生命と安全の大切さを再認識する機会をわれわれ人類に与えています。

産業界、特に計測・制御分野でも効率化を実現する高性能・高機能化だけでなく、安全や環境に対する“想定範囲”を拡大し、災害などの影響度を再確認する必要があります。サイトやシステム全体の機能安全に基づくプロセス安全確保と、環境調和を推進する規格への取組みが強化されると思います。

更なる変化として、限られた資源やエネルギーを国や、地域、街として効率的に管理していくスマートコミュニティ化の進行があります。その背景の下、従来の計測・制御分野はいっそう発展し、再生可能エネルギー発電や、FEMS（Factory Energy Management System）、BEMS（Building Energy Management System）などのエネルギー制御とも協調していくこととなります。東芝グループ全体では、エネルギーや、社会インフラ、次世代交通網などのシステムとICT（情報通信技術）を駆使して広域連携していきます。

1975年に業界の先駆けとして分散形制御システムTOSDIC<sup>TM</sup>を発表してから36年経った今でも、長期実績に裏づけられた信頼と安心の設計、継承性、ロバスト性、及び環境調和をベースに、グローバル化に対応したコントローラや、産業用コンピュータ、フィールド計測機器などの開発を進めています。これらを適用し、将来に向けてシステムインテグレーションの更なる高度化を推進していきます。

この特集では、計測・制御システム技術として重要なコアになる製品群とシステムソリューションを紹介しています。安全・安心な環境調和型社会インフラの実現に寄与する東芝グループの取組みをご理解いただければ幸いです。



森 欣也  
MORI Kinya